

ようこそ 順天女子中学校

韓国の順天市にある順天女子中学校の生徒15人と引率の教員らが1月20日、大方中学校との国際交流事業のため来町しました。

順天女子中学校との交流は、「国際交流を通じ、お互いの文化を理解しながら積極的・意欲的な態度を育成する」ことなどを目的に、昨年度から始まり分かれて町内にホームステイし、中学校の授業を受けたりホストファミリーとの交流など、3泊4日の日程で日本の文化に触れました。



体育館で行われた対面式では、生徒会長の吉井かいと君が、「みんなで協力して、いい思い出になるようにしましょう」と、流ちょうな韓国語を織り交ぜたスピーチで歓迎しました。

滞在2日目は、朝から通常どおり登校。大方中学校の生徒とともに家庭科や音楽などの授業に臨みました。



生徒らは、始めはお互いにはずかしそうにしていますが、給食を食べるころには「マジッソヨ(おいしい?)」「カムサハムニダ(ありがとう)」と徐々に声を掛け始め、休み時間には写真を撮ったりゲームをしたり、積極的にコミュニケーションを図っていました。

谷範浩教頭先生は、「この交流を機会に異国の文化やことばに触れ、外国にも目を向けるきっかけになれば」と話してくれました。

「横浜が大好きだから」

「解放運動の熱と光を未来へ」をテーマとした「第22回横浜解放まつり」が1月30日に行われ、在日韓国人趙博さんの一人芝居や人権作文、解放子ども会の発表などに、たくさんの方が詰めかけました。

幡多農業高校の鈴木萌子さん、自分の住む場所を隠してしまい、やるせない気持ちになつたという経験を打ち明け、「差別を許してはいけない。横浜が大好きだから。少しでも早く差別を無くしたいから」と訴えかけました。また、子ども会低学年部会による「なかまのいいところさがし」では、お互いのいいところを見つけ出し、「誰にでもやさしいところとアンパンマンが好きなど」と大きな声で発表。会場の笑いを誘って



子ども会中学生部会は、狭山事件学習から学んだことを劇にして発表しました。

いました。緊張から泣き出してしまふ子もいましたが、参加者からの「がんばれ!」の声援に励まされ、全員がしっかりと自分の想いを伝えることができました。

他にも、横浜に住む人たちの仕事について学習した子ども会高学年部会は、「横浜に漁師が多いのは部落差別によって仕事を選べなかつたからだと思う」と指摘。「横浜だけがイヤな事をされたり言われたりするのをおかしいと思う。部落差別によって仕事も満足にできなかった人たちが、差別に負けず解放運動をしてきたから今の私たちの生活がある」と力強く発表しました。



旧横浜保育所には、保育所園児や小中学生などによる人権作品が所狭しと展示されました。

当日は小雪が舞うたいへん寒い日となりましたが、参加者の熱い想いで会場は熱気に包まれました。



中央に飾られた流木ツリーは、大方高校生徒がクリエコ活動で作成したものです。

漂流物に想いを馳せて
NPO 砂浜美術館が主催する「第19回漂流物展」が2月6日から3月13日まで、道の駅ピオスおおがた情報館で開催中です。海岸に流れついた漂流物を「ゴミ」ではなく「作品」として捉えたのが漂流物展。会場には流木をはじめ、貝がらやヤシの実、ペットボトル容器など、世界中から数え切れない「作品」が集まり、訪れた方を楽しませていきます。

環境問題から、民俗学から、アートとして。想像力を膨らませ見方を変えることで、漂流物をさまざまな方向から楽しむことができます。砂浜を歩く楽しみがひとつ増えるかもしれません。

式の後、選手らはさっそく入野海岸に移動し、名物の砂浜トレニングを開始。黒潮町雇用促進協議会の研究家、本間大輔さんの指導のもと、ダッシュや馬飛びなど約1時間汗を流しま



球団社長の武政重和さんは、黒潮町佐賀の出身。「就任一年目からこの町で何か町おこしがしたいと考えていました」とあいさつしました。

高知ファイティングドッグス 黒潮町で春季キャンプ
◆砂浜トレニングとカツオで日本一奪回へ！
「四国アイランドリーグplus」の高知ファイティングドッグスが2月6日から11日まで、大方球場で春季キャンプを行いました。6日の歓迎セレモニーでは、大西町長をはじめ大方ライオンズクラブや「大方球場を守る会（小松孝年会長）」の会員など、関係者約50人が出迎え、「カツオを食べてぶっちぎりで優勝してください」とエールを送りました。

◆野球だけじゃない！
高知ファイティングドッグスが所属する四国アイランドリーグは、プロ野球選手を目指す若者にチャレンジのための育成の場を提供するだけでなく、野球教室の開催や地域のイベント、ボランティア活動などに参加し「地域のにぎわいづくり」に貢献することもリーグの役割として位置づけています。

チームは、今キャンプ中も厳しい練習の合間をぬって、入野海岸の清掃や記念植樹、野球教室など、さまざまな活動を行いました。



39年前、監督の定岡智秋さんが南海ホークスでプロ野球選手をスタートさせたのも大方球場での春季キャンプ。当時も砂浜トレニングで鍛えたそうです。

した。主将で俊足の飯田一弥選手は「砂浜トレニングで盗塁王を取ります！」と今シーズンの活躍を誓っていました。



雨天のため屋内で行われた野球教室には、町内の一般硬式野球チームや小学生ソフトボールクラブからたくさんの選手が参加しました。



大方高校生徒との砂浜清掃を終えて記念撮影。平均年齢22歳と若いチームだけあって、選手らはすぐに打ち解けていました。